

ふらっと旧東海道

府中～江尻～興津 14.6km

由比～蒲原 6.9km を歩く

二日目は江尻宿から 10.5km の府中宿まで歩き、駿府城を見学して 14.00"ころまでの電車で帰る予定。

1 「じゃらん」で予約したホテルは 3,425 円

駅前の清水シティーホテルは一泊食事なし 3,800 円の部屋を予約した、でも箱根に行った時のポイントがたまっていて、ポイント割引を利用すると 3,425 円で泊まることが出来た。部屋は広くないが大きな薄型テレビがあり、シャワートイレがあり寝るだけには十分な部屋である。

夕食は清水に来たので魚の旨い、値打ちなおすし屋を探しておいたが、結局はいつものパターンで、駅前で生ビールとギョウザをつまみ中華料理を食べた。私はホイコーロー定食、妻はチャーハンとラーメンのレディースセットで、それぞれ 800 円と 700 円で友夫婦も同じだった。夕食はおいしく食べられたが、明日の朝食を仕入れることにして隣のコンビニへ入った。いろいろある中で私はおかかと菜めしのおにぎり、妻は五目御飯、シャケ、菜めしの小さなおにぎり三個セットを選び、サラダと合わせて 580 円だった。その結果ビール付き一泊二食は 4,915 円 / 人ということになる。



江尻宿道標と案内板

2 江尻は武田信玄が城を築き城下町となる

久しぶりに朝はご飯で、おにぎりとサラダの朝食は旨かった。ご飯を食べてお茶を飲む、普段と違うこともたまにはいいものだ。少し休憩してから7.00にホテルを出て東海道へ向かう、すでに通勤する多くの人たちが足早に駅に向かっている。

ここ江尻は今川氏のころから三日市場として栄え、永禄12年(1569)武田信玄が城を築くことにより城下町となり職人の町が発達した。慶長6年(1601)徳川家康は東海道53次を定めるにあたり、これまでの主要街道から現在の銀座通りを通すことにしてこの地を江尻宿とした。江尻というのは巴川の尻、すなわち下流ということで、川のほとりにできた宿場。宿場の中心は稚児橋付近で、伝馬役を負担したのは主に下町・中町・魚町の三町で、これを江尻町といった。本陣は魚町と中町に一軒ずつ、脇本陣は下町に二軒、中町に一軒あり、一般の旅籠は50軒ほどあったという。江戸から18番目の宿場で駿河では府中に次いで大きく、2kmあった宿場の清水駅付近は駅前商店街となっており宿場時代の面影は見られない。

19分も歩くと稚児橋に着く、徳川家康の命により架けられたという橋で、渡り初めの時川の中から稚児姿のカップが現われ、橋を渡ったのでその名がつけられたという。そのため橋には可愛らしいカップの像がのっている、これも愛嬌があってよい。



稚児橋



都田一家の供養塔

3 次郎長ではなく都鳥吉兵衛の墓にお参り

稚児橋から18分程歩くと追分の道標があり、その隣のお店の赤いシャッターには「追分羊かん」と文字がおどっている。その前を子供たちが登校して行く。そこから5分ほど歩いた所で面白い物を見つけた。都田一家の供養塔だ、説明によると「文久元年(1861)正月15日、清水次郎長は子分の森の石松の恨みをはらすため、遠州都田の吉兵衛をこの追分で討った」とある。そして、その是非はともかく討たれた吉兵衛を弔う人もまれなのを哀れみ、里人が供養塔を最期の地に建立したというのだ。

そういえば昨日は清水次郎長の墓がある梅蔭寺と、生家を尋ねようと思って
いたが到着時間が遅くて行けなかった。次郎長の墓参りが出来なかった代わ
りに、次郎長に討たれた都鳥の墓参りをする事になるとは思いも寄らぬこ
とだった。

ここからしばらく歩いて8.00頃、静岡鉄道の狐ヶ崎駅前にベンチがあっ
たので小休止した。ここで友の細君からカステラの差し入れがあり、ほおば
りながら通勤する人たちが歩いて、あるいは自転車で駅に向かっているのを
眺めた。若い女性のファッションはいろいろで、さすがに東浦とは違い華や
かでいつも見なれているおばさんたちとは違う、たまには見ているのも楽
しいものだ。

4 日本武尊と草薙の地名

上原子安地藏堂、有度小学校前を通って行くと草薙一里塚跡に着く。清水
銀行の駐車場隅に立派な石碑が建ち、そのうえ一里塚の説明板も石造りであ
った。これだけお金をかけるのなら、小さくても塚を復元して欲しいものだ
が.....。ここ草薙は日本武尊が東国征伐のおり、土豪にだまされて草原
で火攻めにあい「アメノムラクモの剣」で草をなぎ倒して難を逃れた。この
ことから剣を「草薙の剣」と呼ぶようになった。そして、焼き払われた野原
は焼津と名付けられ、本営を置いたここは草薙と名付けられた.....
というのだが。



草薙神社の鳥居



東光寺のダルマ大師像

一里塚跡から15分も歩くと草薙神社の鳥居がある、街道沿いの大鳥居と
元禄12年建立の刻字がある道標から1kmも先に、日本武尊を祀った草薙神
社がある。ここから東海道は左に折れて大通りから離れ、かなりの登り坂を
上がりすぐに右折して大通りに平行して進む。この辺りは久能山にむかって
の斜面でかなりの傾斜がある、周りは静かな住宅街で植木屋さんがあちこち
に見られた。草薙から中ノ郷へ入っていく所だ。

5 閻魔坂とダルマ大師の像

10分程歩くと東光寺があり、大きなダルマ大師像が立っている。そこには二つの事の説明板があった。有度郷土史によると、閻魔大王をご本尊とする閻王寺があり、お参りをすれば極楽にいけるばかりか、現世の罪も許されて子孫も繁栄すると信じられた。明治10年廃寺となったが門前の東海道を閻魔坂といった、傾斜が急で馬から落ちて怪我をする人が多かったそう。これは馬に乗ったまま通り過ぎるのが、閻魔大王様に礼を失したからと考えて、たとえ参勤交代の大名でも馬から降りて通行した。その後行き来する人たちの安全を願って、住職は閻魔大王の胎内仏を後ろ向きにして法要を行ったところ、事故はなくなったという。……つまりは昔から急な坂道であったということだ。

ダルマ大師は今から1500年前インドの国の王子として生まれ、60歳で中国に渡り9年間座禅を続け、禅を中国に広めました。その教えが日本にも伝わり曹洞宗、臨済宗となりました。したがってこれら禅宗のお寺では、ご本尊様の左隣にダルマ大師様をお祀りしています。普通私たちが見るダルマ像は、座禅をしている姿を現した坐像が一般的ですが、ここ東光寺に建立されたダルマ像は大変珍しい立像で、酒の入った瓢箪を杖の先に引っ掛け、片手に藁の靴を持ったお姿をしています。足元は、ダルマ様が揚子江を藁の葉に乗って横切ったという言い伝えを元に、藁の葉と揚子江の波が表現されています。ダルマ大師に手を合わせ、足元の藁の葉をさすればご利益が受けられるとか……。

6 たびたび消える旧東海道

閻魔坂を下って行くとお腹の具合がよろしくない、夕べよく眠られなかったことが影響しているようだ。とても繊細なところが私の弱点で、京都の逢坂山を越える際にもこんなことがあった。9.00"ころ東名の高架橋をくぐると運よくスーパーがあり、開店の準備中だったがお手洗いは店の外にあり借りることが出来た。ホッとして歩き出すと、じきに静岡鉄道の県総合運動場駅前を通りその先で東海道線にぶつかる。この鉄道の部分数百メートルの旧東海道はなくなってしまった、そのため線路の前に東海道の記念碑が建てられていた。線路の向こう側へ行くには地下道を通っていく、ところがこの地下道は入り口と出口がとても狭い。歩行者専用なら良いがそうではなく、車も走っていてとても危険なのだ。その入り口に向かったら、ピーピーピーと警笛を鳴らしながらバイクが走りでてきた。でもトンネルに入ると中は車2台が走れる広さだった、出入り口だけ何故狭くしたのだろう??

トンネルを抜けて5分も行くと、軒先にアケビがたくさんぶらさがる家があった。すでに多くははじめていた、それにしても民家の庭でアケビを見るのは珍しい。ここから10分ほどで国道一号に合流するが、その手前に駿河三大名物「兎餅」跡地の大きな看板が目を引いた。駿河三大名物は安倍川餅、わさび漬かな、でもこの兎餅というのは知らなかった。



東海道の記念碑



古庄付近の国道一号

7 5分間隔で電車が走る静岡鉄道

国道一号を渡りすぐ斜めに分岐して進むと、長沼一里塚跡の小さな石碑が現われた。その先に静岡鉄道長沼駅があり、となりの踏み切りは丁度電車が来て遮断機が降りたところで、向こうもこちらも車が並んでいた。電車は2両編成でそんなにお客は乗っていないようだった、でもレールに沿って次の柚木駅まで20分弱歩くうちに、上下何本もの電車が行きかった。

旧東海道は柚木駅手前の護国神社の所から左カーブして、再度東海道線を横切る、そのためこの区間も旧東海道はなくなっている。だから柚木駅前の歩道橋で国道一号を渡し、今度は東海道線のガードをくぐって旧東海道に合流しなくてはいけない。歩道橋の階段を登ると柚木駅のホームは丸見えで、列車ダイヤを見て驚いた。なんと一時間に12本、つまり5分間隔で電車が走っているのだ。それも朝から晩まで同じで見た限りではお客はそんなに乗っていないのだが.....こんなに走らせる必要があるのだろうか?? 不思議に思っていると、黄色に塗装して午後の紅茶の宣伝をペイントした電車がホームに入ってきた。

8 やっと見つけた喫茶店

東海道線をくぐると直に「曲金」の道標がある、ここから10分で国道一号の高架橋下に着く。そのすぐさきは東海道線のガードで、手前にはガード保全のための黄色いゲートが建っている。でもおかしいことにこの道は一方

通行で、こちらからは進入禁止になっている。向こうからのみ車が来るのに、ガードをくぐってから保全用のゲートがあるのだ。昔は一方通行ではなかったというのだろうか.....。

ガードをくぐると延命地蔵尊がある、でもその祠は民家に組み込んで作られておりちょっと珍しい。そのすぐ先には鳥居のまえにいくつもの提灯をぶら下げた西宮神社がある。福の神で商売繁盛の神「恵比寿様」を祀っています。毎年10月19.20日に行われる祭りは、「おいべっさん」と呼ばれ、縁起物などを売る露天が立ち並び大変なにぎわいという。街中それも商店街へ入ってきたが、これまで飲食店は一軒も見当たらない。地蔵尊から20分も歩くと久能街道道標がある、これは駿河湾沿岸の集落との交易の道で、家康公が久能山に葬られてからは、参勤交代で行き来する西国の大名が東照宮参詣のために通った道です。



久能街道道標



喫茶店「カフェ・アール」

この久能街道道標の立つ店が喫茶店だった、私は気がつかなかったが立ち止まった妻は、少し高い位置にある CAFE の文字を見つけた。入り口は大通りに面しておらず、左折した狭い通りにあったので分かりにくかったのだ。屋外にも小さなテーブルとオリーブの鉢植えが置かれた、ちょっとしゃれた感じの「カフェ・アール」だ。汗もかいていたので入ると全員がアイスコーヒーを頼んだ、それからゆっくり店内を見回すと、若い従業員が3人で、お菓子も作っているし、いろいろな果実酒も並んでいた。早速友の細君が下調べに席を立った、私も甘い物が欲しくて何か頼もうかということに。妻はイチジクのタルト私はモンブラン、友の細君はプリンを頼む。でも、のん兵衛一の友は果実酒を頼んでいた。おいしいケーキとおいしいコーヒーを楽しんで、ゆっくりすることができた。カフェ・アールで30分ほど休憩して店を出た。

9 於大の母「華陽院(お富)」の墓

店を出た交差点の角に花陽院門前町の石碑があった、それには於大の母であるお富(源応尼)の墓の説明があった。散策マップにも華陽院・源応尼の墓が載っており、ここまで来て寄らずに帰っては大変だ。早速華陽院に向かう、通りから一本入った日吉町保育園の隣が華陽院だった。ここは源応尼の菩提寺で、はじめは知源院とよばれていた。当時岡崎に人質の身であった竹千代は、田んぼをはさんで隣り合ったこの寺によく遊びに来た。源応尼は孫の竹千代をかわいがり、時には文筆の師として訓育したという。源応尼は永禄3年(1560)5月6日、駿府で逝去、後年家康は祖母のために盛大な法要を営んだ。華陽院の名はその戒名からとり改められたものである。



花陽院門前町の石碑



華陽院・源応尼の墓

墓地の奥まった所に徳川家康の祖母・源応尼の墓の立て札が立ち、明らかに古そうな立派な造りの墓石があった。その隣には7歳で死んだ、家康の5女市姫の墓が並んでいる。始めは気がつかなかった於大の母の墓にお参りすることができた。でも考えてみたらまだ於大の墓はお参りしていなかった。

ここからはすでに見学した本陣跡・脇本陣跡を通り、西郷・山岡会見之史跡前を通過して駿府城へ行く。巽櫓を見て東御門から城内へ入り、一回りするが資料館のようなものはなくて、近く開催される大道芸の準備が進められていた。家康像と地震で崩れた石垣を見て駅方面に向かう。途中で12.15分「ほっけ定食」を食べて静岡駅に着く歩数は25,000歩だった。13.22"の電車に乗り東浦駅には16.27"帰着した。